



「三笠市かわまちづくり計画」の登録証伝達式を行います

～ 幾春別川の利活用がますます盛り上がります ～

三笠市が策定した「かわまちづくり計画」が、8月7日（金）、国土交通省かわまちづくり支援制度に登録されました。つきましては、登録証伝達式を下記のとおり行いますので、お知らせします。

【かわまちづくり支援制度】

国土交通省では、水辺を活かして地域の賑わい創出を目指す取組「かわまちづくり」を推進しています。「かわまちづくり」とは、地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組を連携することにより、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組です。



かわまちづくり支援制度

<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/>

記

1. 登録証の伝達式

日 時 令和8年8月31日（月） 11時00分～
会 場 三笠市役所 301号室
（三笠市幸町2番地）
出 席 者 三笠市長、札幌開発建設部長 ほか



北海道のかわまちづくり

https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kn/kawa_kou/ud49g7000000ahtj.html

2. 添付資料

- 別紙1 「三笠市かわまちづくり」概要
別紙2 取材申込票
参考1 北海道における「かわまちづくり計画」の登録箇所
参考2 かわまちづくり支援制度とは

3. 取材関連

取材を希望される方は、別紙2により8月27日（木）12時までにお申し込み願います。
当日は開催時刻10分前までにお越し願います。

【問合せ先】	国土交通省	北海道開発局	札幌開発建設部	電話（ダイヤル）011-611-0329
			特定治水事業対策官	唐澤 圭（内線 3451）
三笠市	建設部建設課		流域治水対策専門官	林田 寿文（内線 3327）
			電話	01267-2-3999
			建設課長	田中 栄輔（内線 265）
			建設管理係長	千葉 祐揮（内線 266）

「三笠市かわまちづくり」（北海道三笠市）

【別紙1】

対象河川：一級河川 石狩川水系幾春別川【国管理河川】

市町村名：北海道三笠市

推進主体：三笠市



1. 概要

三笠市では、「日本一安心して誰もが暮らし続けたい自然豊かな元気田園産業都市」を将来都市像として掲げ、歴史、文化、観光、食、アクティビティ等をまちづくりの柱として、様々な取組を推進してきました。

これらの取組で培った資源・実績をさらに発展させるため、本計画では、三笠市街地及び三笠ジオパーク桂沢エリア周辺を利活用拠点として位置付け、利活用拠点を結ぶ幾春別川の水辺空間を軸とした整備を行うことにより、まちの魅力向上及び交流人口の拡大を図り、三笠市の観光振興を通じた地域活性化を目指します。

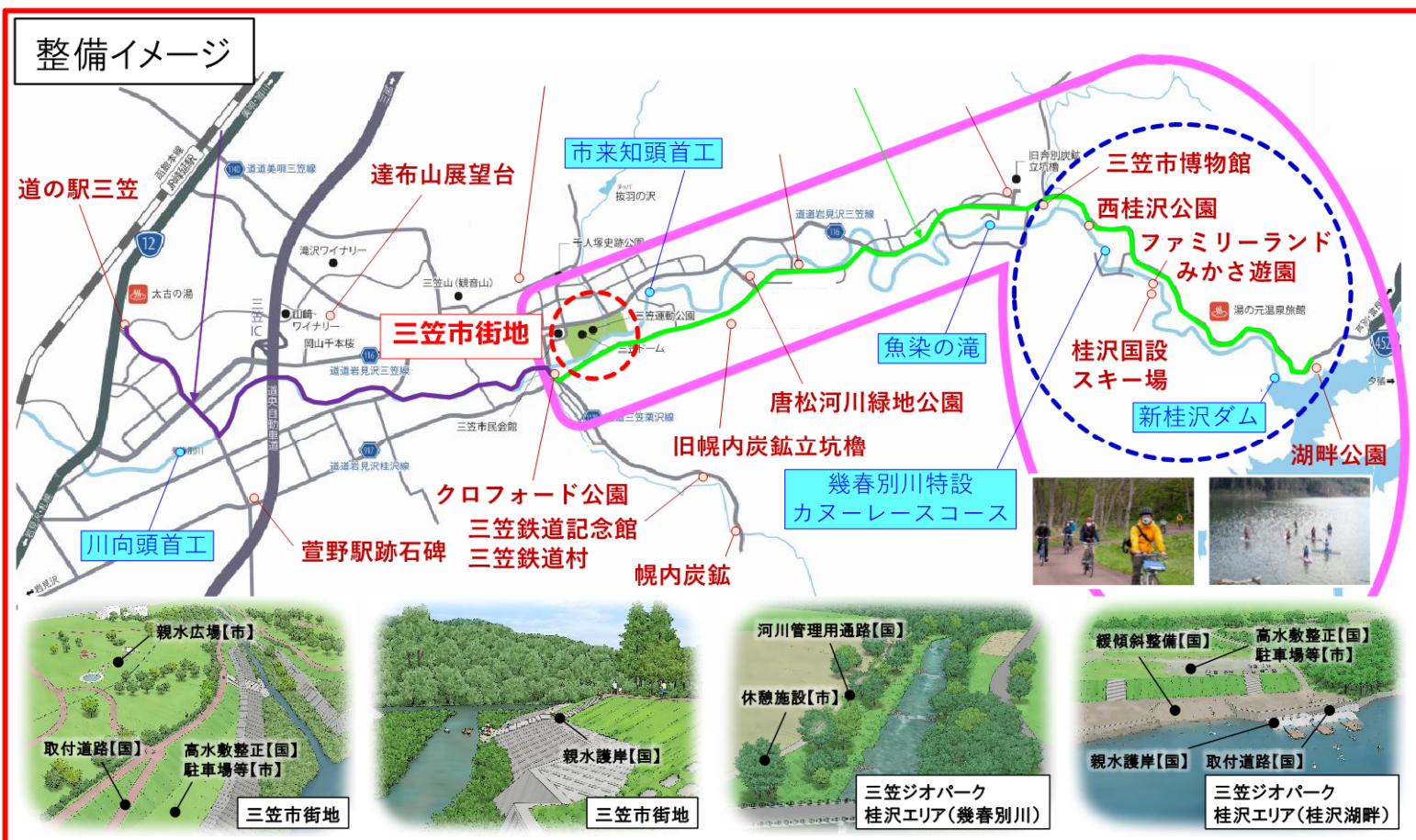
河川管理者(北海道開発局)は、本計画の推進に当たり、必要となる河川管理施設を整備するほか、河川敷地占用許可準則第22に基づく都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

- 国土交通省：河川管理用通路、親水護岸、緩傾斜整備・高水敷整正、取付道路等
三笠市：親水広場整備、イベント広場、駐車場・休憩施設整備、植栽、案内看板、注意喚起看板・路面標示、フォトスポット、浮き桟橋

3. ソフト施策の内容

- 国土交通省：都市・地域再生等利用区域の指定 等
三笠市：ジオパークやアウトドア事業者等と連携した、年間を通した水辺空間を活用した新たなイベント・アウトドア利用の企画、幾春別川の自然を学ぶ体験学習等の推進、幾春別川の利活用拠点と周辺の観光交流施設をつなぐサイクリングコースの設定 等



※今後、工事实施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

取材申込票

(「三笠市かわまちづくり計画」登録証 伝達式)

送付メールアドレス: hkd-sp-r8seitaiei@gxb.mlit.go.jp

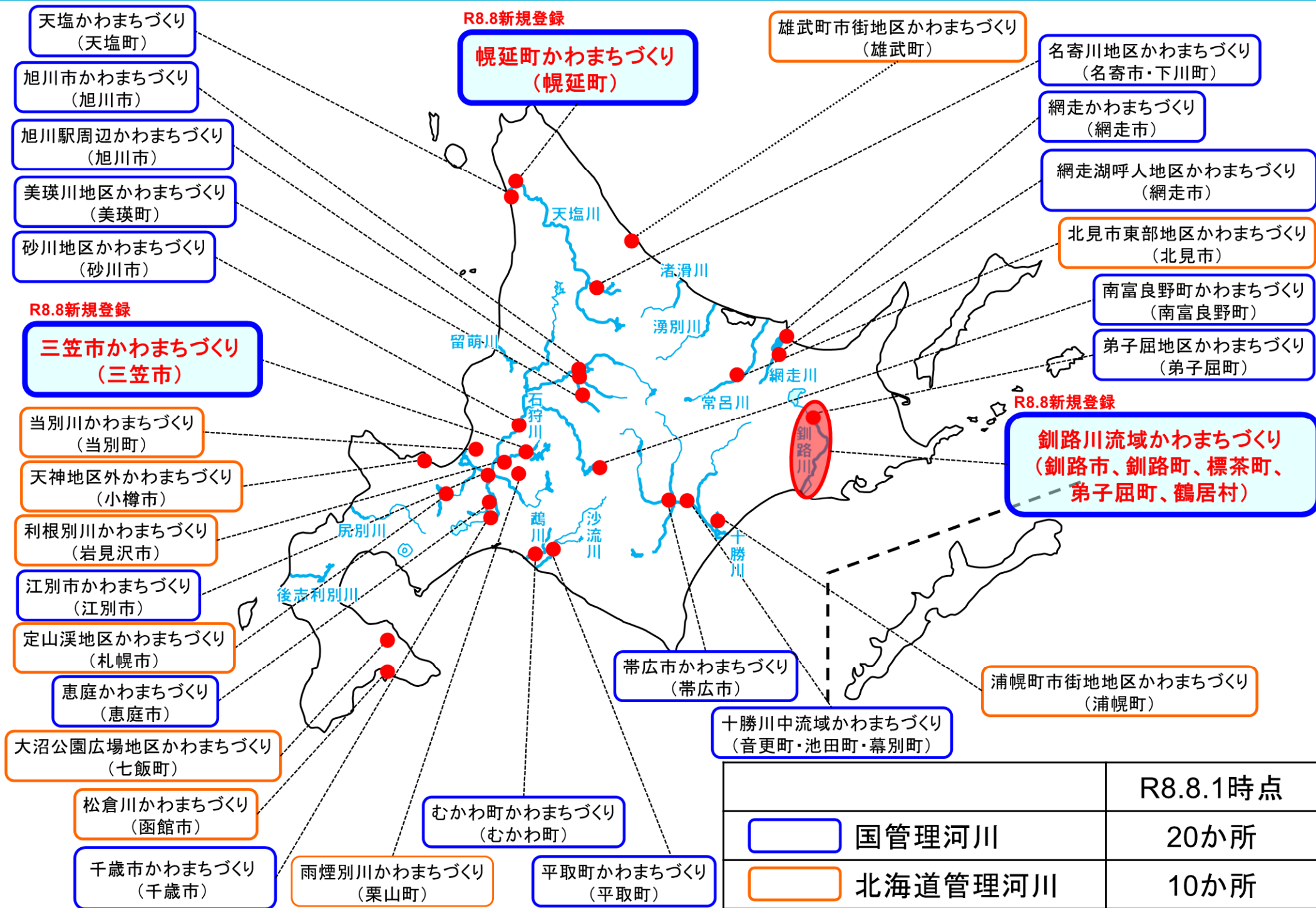
札幌開発建設部 特定治水事業対策官 唐澤 宛

報道機関名	
参加者氏名	
問合せ電話番号	
連絡事項	

- 連絡事項欄には伝達事項等がありましたら、ご記載ください。
- ご提供いただいた個人情報は当日の参加確認に使用させていただき、他の目的には使用いたしません。

北海道における「かわまちづくり計画」の登録箇所

【参考1】



水源地から河口まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す。

